

# 日本における『水滸伝』語彙・語法研究 文献目録

今 村 圭 編  
鈴 木 誠 監修

本目録は、1945年以降に日本で公刊された水滸伝に関する語彙・語法研究の文献を時代順に整理したものである。文献は内容によって、I 論文、II 注釈・辞典、III 専著に分類し収録した。文献名および著者名等の文字表記は、基本的に掲載誌の表記に準じた。また、中国で公刊された文献については、鈴木誠編「水滸伝語彙・語法研究文献目録稿（中文1949-1990）」（『中国研究』創刊号1992年）がある。

## I 論文

001. 水滸傳の言葉 相浦杲  
『東方學』第5輯 1952年
002. 水滸のことは（一） 香坂順一  
『人文研究』第5巻第6号 1954年
003. 水滸の言語における動詞の詞構成の原則  
エム・イ・ソフロノフ 川上久寿訳  
『中国語学』第71号 1958年
004. 水滸の言語における動詞の詞構成の原則 II  
エム・イ・ソフロノフ 川上久寿訳  
『中国語学』第82号 1959年

005. 水滸のことば 香坂順一  
『中国語学研究集刊』第1号 1959年
006. 水滸伝版本間にみられるコトバの相違—金聖嘆本を中心として—  
大内田三郎 『中国語学』第156号 1965年
007. 『水滸傳』に見える「𠵼」の譯語について 駒田信二  
『東京支那學報』第13號 1967年
008. 水滸伝における「去」の用法について 阿部兼也  
『文化』第31卷第4号 1968年
009. 『水滸伝』の言語—『水滸志伝評林本』の用語を中心に—  
大内田三郎 『天理大学学報』第65輯 1970年
010. 〈水滸伝〉の言語—助詞“de”の用法について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第68輯 1970年
011. 『水滸伝』の言語—再び「在」について— 大内田三郎  
『中文研究』第11号 1970年
012. 『水滸伝』から『金瓶梅』へ—重複部分のことばの比較—  
上野恵司 『關西大學中國文學會紀要』第3號 1970年
013. 〈水滸伝〉の言語—「個」の用法について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第72輯 1971年
014. 『水滸伝』の言語—同義語における—考察— 大内田三郎  
『中文研究』第13号 1972年

015. 水滸伝・水滸後伝集諺——中国諺語資料 (3) 古屋二夫  
『東邦学誌』第5巻 1973年
016. 『水滸伝』と『金瓶梅』 大内田三郎  
『天理大学学報』第85輯 1973年
017. 『水滸伝』の言語—単音節語と多音節語の同義語について—  
大内田三郎 『天理大学学報』第92輯 1974年
018. 『水滸伝』の言語—動作動詞の同義語について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第94輯 1974年
019. 『水滸伝』の言語—述語の後置成分について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第96輯 1975年
020. 『水滸伝』の言語—再び“個”について— 大内田三郎  
『中文研究』第15号 1975年
021. 「水滸伝」から「金瓶梅詞話」への変化—罵語を中心として—  
寺村政男 『中国総合研究』創刊号 1975年
022. 『水滸伝』の言語—簡本（百十五回本）の文章について—  
大内田三郎  
『天理大学学報』第27巻第3号（第101輯） 1976年
023. 『水滸伝』の言語—状況語について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第28巻第1号（第104輯） 1976年
024. 水滸伝の称呼（一）—自称語— 高島俊男  
『中国語研究』第19号 1979年

025. 『水滸傳』の言語—場所を示す介詞について— 大内田三郎  
『天理大学学報』第33巻第1号(第132輯) 1981年
026. 水滸傳の称呼(二)—対称語— 高島俊男  
『中国語研究』第20号 1981年
027. 「小嘍囉」小考 高島俊男  
『中哲文學會報』第7號 1982年
028. 〈水滸傳〉にみえる文末の“在那里”について 植田均  
『中国語学』第229号 1982年
029. 『水滸傳』の言語—『容與堂本』の字句について— 大内田三郎  
『人文研究』第35巻第2分冊 1983年
030. 「西遊記」における“把”字句について—「水滸傳」との比較におい  
て— 鈴木達也 『筑波中国文化論叢』2 1983年
031. 『紅樓夢』における“把”字句について—『水滸傳』『西遊記』のそれ  
と比較して—  
鈴木達也 『言語文化論集』第15号 1983年
032. 《水滸傳》に見られる副詞 香坂順一  
『東洋研究』第69号 1984年
033. 《水滸傳》に見られる副詞(二) 香坂順一  
『東洋研究』第72号 1984年
034. 『水滸傳』の言語—動詞「与」について— 大内田三郎  
『人文研究』第36巻第3号 1984年

- 035.《水滸傳》に見られる副詞（三） 香坂順一  
『東洋研究』第76号 1985年
- 036.“吃”の用法から見た『水滸』 守屋宏則  
『中国俗文学研究』第3号 1985年
- 037.『水滸傳』の言語—補語について— 大内田三郎  
『人文研究』第37巻第3分冊 1985年
- 038.《水滸傳》にみえる「受動」表現について—“被”“吃”“乞”を中心に—  
植田均 『奈良産業大学紀要』第1集 1985年
- 039.《水滸伝》に見られる副詞（四） 香坂順一  
『東洋研究』第80号 1986年
- 040.『水滸傳』の言語—連詞「和・并・与・同」について—  
大内田三郎 『人文研究』第39巻第3分冊 1987年
- 041.《水滸傳》研究方法論—香坂順一著《〈水滸〉語彙の研究》の書評を  
兼ねて— 佐藤晴彦  
『神戸外大論叢』第38巻第7号 1987年
- 042.《水滸傳》に見られる能願動詞 香坂順一  
『東洋研究』第87号 1988年
- 043.“則個”考—《水滸伝》の用例をめぐって— 阿部博幸  
『中国文化（漢文学会会報）』第47号 1989年
- 044.「水滸伝」における文字表記—‘裏’と‘箇’を中心にして—  
加護谷春江 『語学漫歩』第12号

1989年（古代文字資料館編『語学漫歩選』所収）

045. 『水滸伝』と『金瓶梅』 一 共通部分における字句の相違とその意味について一  
川島郁夫 『神田外語大学紀要』 第1号 1989年
046. 《水滸全传》的让步复句 李思明  
『中国語研究』 第31号 1989年
047. 『水滸』に見られる〈没〉 守屋宏則  
『中国俗文学研究』 第7号 1989年
048. 《水滸》词语解释拾遗 杨天戈  
『中国語研究』 第31号 1989年
049. 《水滸全傳》と《金瓶梅詞話》の言語一名詞の接頭辞と接尾辞一  
李思明, 植田均 『開篇』 vol.7 1990年
050. 『水滸傳』の言語一助詞「时」について一 大内田三郎  
『人文研究』 第41卷 第5分冊 1990年
051. 『水滸传』語彙計量分析試論一語彙・語法史研究におけるパソコン応用の試み一 伊原大策 『筑波中国文化論叢』 10 1991年
052. 『水滸伝』補語小考 井上泰山  
『中国俗文学研究』 第9号 1991年
053. 《水滸傳》“嘉靖”残卷について 佐藤晴彦  
『神戸外大論叢』 第42卷 第3号 1991年

- 054.《水浒传》と《金瓶梅词话》の言語—状態を示す重畳型—  
李思明, 植田均 『中国語研究』第34号 1992年
- 055.『水滸傳』の言語—「便」について— 大内田三郎  
『中国学志』師号(第7号) 1992年
- 056.『水滸』にみられる可能補語の特徴 守屋宏則  
『中国俗文学研究』第10号 1992年
- 057.《水滸傳》と《金瓶梅詞話》の言語—名量詞, 動量詞—  
植田均, 李思明 『奈良産業大学紀要』第8集 1992年
- 058.《水浒传》中的四字格 崔应贤  
『中国語研究』第35号 1993年
- 059.《水滸傳》と《金瓶梅詞話》の数量表現(上) 李思明, 植田均  
『産業と経済』第7巻第5号 1993年
- 060.《水滸傳》と《金瓶梅詞話》の言語—動詞の態及びその変化形式—  
李思明, 植田均 『奈良産業大学紀要』第9集 1993年
- 061.『水滸』中の〔動詞+“得”+形容詞〕形式 守屋宏則  
『明治大学教養論集』255号 1993年
- 062.《水滸》の“相~” 香坂順一  
『中国語研究』第36号 1994年
- 063.《水滸傳》と《金瓶梅詞話》の数量表現(下) 李思明, 植田均  
『産業と経済』第8巻第5号 1994年

064. 『水滸傳』と『金瓶梅詞話』の言語—助動詞（上）—  
植田均, 李思明  
『奈良産業大学経済学部創立10周年記念論文集』 1994年
065. 《水滸傳》と《金瓶梅詞話》の言語—助動詞（下）—  
植田均, 李思明 『奈良産業大学紀要』第10集 1994年
066. 『水滸傳』と『金瓶梅詞話』の言語—構造助詞—  
李思明, 植田均 『奈良産業大学紀要』第11集 1995年
067. ‘動・到’と‘動・着’の分布について（三）—《水滸傳》を中心に—  
大島吉郎  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第33号 1995年
068. 中国近世白話語法の研究：『水滸』の補語に関する諸問題——能願動  
詞と可能補語の差異について 守屋宏則  
『明治大学人文科学研究所紀要』第39冊 1996年
069. 《水滸傳》《金瓶梅》和《西游记》里的A A B B重叠式 宿玉堂  
『大阪外国語大学論集』第14号 1996年
070. 『水滸傳』における文言と白話の融合 北村真由美  
『中國文學研究』第25期 1999年
071. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』1名詞 中村浩一  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第37号 1999年
072. 動詞重疊型に関する通時的研究（一）—《水滸傳》を中心に—  
大島吉郎  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第37号 1999年



073. 容與堂本『水滸傳』成立の一側面 佐藤晴彦  
『神戸外大論叢』第50巻第5号 1999年
074. 水滸武松物語における“把与”について 鈴木誠  
『中国研究』第7号 1999年
075. 中国語文法・語彙の歴史的研究—『水滸』中の可能補語の統語論的・  
意味論的考察— 守屋宏則  
『明治大学人文科学研究所紀要』第47冊 2000年
076. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』1名詞（用例資料）  
中村浩一  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第38号 2000年
077. 水滸伝の待遇表現 荒木典子  
『開篇』vol.21 2002年
078. 中国語文法・語彙の歴史的研究 守屋宏則  
『明治大学人文科学研究所紀要』第50冊 2002年
079. 『水滸傳』成立考—語彙とテクニカル・タームからのアプローチ—  
高野陽子 小松謙 『中國文學報』第65冊 2002年
080. 『水滸伝』閩江州・祝家莊物語における“把與”について  
鈴木誠 『中国研究』第11号 2003年
081. 用字の違いから見る『水滸傳』の成立 達富陸  
『和漢語文研究』創刊号 2003年

082. 『水滸傳』 百二十回本挿入部分と馮夢龍の關係——量詞「籌」を端緒として 林雅清 『中国語研究』 第 46 号 2004 年
083. 中国語文法・語彙の歴史的研究—主に各種の「補語」をめぐって— 守屋宏則 『明治大学人文科学研究所紀要』 第 54 冊 2004 年
084. 《水浒传》的“教”字句 能勢梅子 『神戸外大論叢』 第 55 卷 第 1 号 2004 年
085. 『水滸傳』に見られる“把與”について 鈴木誠 『麗澤大学紀要』 第 79 卷 2004 年
086. 國家圖書館藏『水滸傳』殘卷について—“嘉靖”本か？ 佐藤晴彦 『日本中國學會報』 第 57 集 2005 年
087. 『水滸傳』に見られる“被 (Np) V 不過”について 鈴木誠 『中国研究』 第 13 号 2005 年
088. “方便”について 中村浩一 『大東文化大学紀要〈人文科学〉』 第 44 号 2006 年
089. 从《史记》《水浒传》的比较看使动句的发展 能勢梅子 『神戸市外国語大学研究科論集』 第 9 号 2006 年
090. 『水滸傳』に見られる“VC 在”について 鈴木誠 『中国研究』 第 14 号 2006 年
091. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』多音節形容詞 1 中村浩一 『大東文化大学紀要〈人文科学〉』 第 45 号 2007 年

092. 「却」「只」(zhi 第三聲) の意味やはたらき—「水滸伝」の翻訳作業ではない原文読解作業の場合— 阿部兼也  
『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 16 号 2008 年
093. 中国語文法・語彙の歴史的研究—『水滸』に見られる“得”の用法— 守屋宏則  
『明治大学人文科学研究所紀要』第 63 冊 2008 年
094. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』多音節形容詞 2 中村浩一  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第 46 号 2008 年
095. 『水滸伝』に見られる兼語をともなわない使役表現について 今村圭  
『中国研究』第 17 号 2009 年
096. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』多音節動詞 1 中村浩一  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第 47 号 2009 年
097. 『普通話三千常用詞表』と『水滸』多音節動詞 2 中村浩一  
『大東文化大学紀要〈人文科学〉』第 48 号 2010 年
098. 『水滸傳』は何時ごろできたのか?—異体字の観点からの試論 佐藤晴彦  
『水滸伝の衝撃 東アジアにおける言語接触と文化受容』 勉誠出版 2010 年

## II 注釈・辞典

099. 『水滸伝』語彙辞典稿 A～Y 高島俊男  
『中国語学』第 224 号 1977 年～  
『岡山大学文学部紀要』第 11 号 1989 年

100. 水滸伝 潘金蓮の人物形象 高島俊男  
『中国の古典文学—作品選読—』 東京大学出版会 1981年
101. 三拳 鎮関西を打ち殺す 金文京  
『中国小説選』 角川書店 1989年
102. 《近代漢語読本》〈水滸伝〉部分の注釈について 鈴木誠  
『中国研究』第4号 1995年
103. 古典の世界『水滸伝』(1) 高島俊男  
『中国語』 内山書店 1995年4月号
104. 古典の世界『水滸伝』(2) 高島俊男  
『中国語』 内山書店 1995年5月号
105. 古典の世界『水滸伝』(3) 高島俊男  
『中国語』 内山書店 1995年6月号
106. 『水滸伝』を読む 第一回 発端, 史進の義俠 大木康  
『NHK ラジオ中国語講座』 日本放送出版協会 1998年6月号
107. 『水滸伝』を読む 第二回 『水滸伝』の成立, 魯智深と武松  
大木康  
『NHK ラジオ中国語講座』 日本放送出版協会 1998年7月号
108. 『水滸伝』を読む 第三回 林沖の悲しみ, 首領宋江 大木康  
『NHK ラジオ中国語講座』 日本放送出版協会 1998年8月号
109. 『完訳 水滸伝』(一～十) 卷末注 吉川幸次郎・清水茂  
岩波書店 1998年～1999年

110. 古典読解講座『水滸伝』「母夜叉孟州卖人肉 武都头十字坡遇张青」(1)  
小松謙 『中国語』 内山書店 1999年10月号
111. 古典読解講座『水滸伝』「母夜叉孟州卖人肉 武都头十字坡遇张青」(2)  
小松謙 『中国語』 内山書店 1999年11月号
112. 『水滸』精読(1) 植田均  
『奈良産業大学紀要』第16集 2000年

### Ⅲ 専著

113. 『《水滸》語彙の研究』 香坂順一 著  
光生館 1987年
114. 『《水滸》語彙と現代語』 香坂順一 著  
光生館 1995年